法普戰争誌畧　三

洋学文庫
文庫8
C 320
3

法将マクマオン

マレシヤル。ベゼーン

41- 7040

ゼ子ラル・トロシユ　　ジユク・ハーフル

# 法普戰爭誌略卷之三

西暦一千八百七十年九月廿七日即ち
我明治三年庚午九月三日也

九月廿七日法全國へ布令内務全權宰相
過日外務宰相ジユル・ハーブル氏普軍中に往き宰相ビスマルク氏に面晤和平の議を計りたるに普軍中の示令書に曰く今般普國飽迄法國を攻擊し其兵權を奪ひ國威を墮し向後法國をして歐羅巴洲第二等の國權に屬せしむへしと今次若し法國

暫時休兵解軍を乞ふ時はストラスブール縣ツール縣及巴里府郭外のモンパレリアン城を質として我軍に預る事を許さは則ち其解兵の談に應し可しと云へり爰に於て我法國和平の念を斷ち法國人種を竭し焦土となるまて戰爭決へき旨を決答せり故に我か法國の人民擧て兵備をなし人種を竭して飽まて防戰しへきなり

第二の布令商農全權宰相

此節府内食糧の獸肉闕乏の趣に付來る廿八日より日々牛五百頭羊四千頭宛屠り巴里府内人民食糧に為る配當しへきなり

此牛羊の肉は即坐に市中屠者及獸肉諸商人へ悉く拂ひ渡しへし又其小賣の定價は商農全權宰相よりの布令通りにて違背なく商賣しへき也

右商法の裁斷都て市街都督に委任せしものなり

附錄右獸肉は諸屠場に於て其商人共へ拂渡したる上は各其近傍の屠場にて相求むへく右肉の代價は夫々示令通りにて相違なく商賣いるしへく尤も其價一キロガラム（我か秤量二百六拾八匁程）に當るに付二拾サンチーム（我か三百

六七拾文に當ると定む
右諸屠者及獸肉商人の商法曲直ハ其市街の宿老に是を監察すへき事を命しなり

一千八百七十年九月廿六日

第三書翰贈答の布令巴里府政事堂より

籠城中法國諸郡縣及他國へ贈るへき書翰を時々氣球を以て送達すへし
此氣球に仍て送達する處の書翰其重量四ガラム〔我か一匁零七厘二毛也〕を限り此量を越ゆへからす



右の總裁ハ會計全權宰相に委任せられたり

一千八百七十年九月廿六日

同廿八日巴里府市街へ布令總裁職

此程追々短日となれハ來る十月一日より城郭諸道の門戸朝七字より夕七字までの間開門して其通行を差許し其前後は通行を一切禁斷す

一千八百七十年九月二十七日

以太利亞國月誌中に以國の兵竟に羅馬の市街に亂入せり羅馬法王未た其城中に在りと雖も以の屬國となるへき勢ひなりと○今日府內の狀態を見るに

巴里府住民食糧乏しき為日々牛羊四千五百頭を屠る
べき令ありしも其肉二百萬口に配賦し難きハ市
中大に獸肉に缺乏し終日屠者の店前に人群集して
其肉を爭へり又其價昔日の四倍に騰貴せり貧子の
究知るへきなり○同二十九日今朝第五字より巴里
府城外巽及艮の方に當りて烈しく砲聲轟きしか八
字ころより此砲聲止む○今朝再ひ獸肉賣買の法に
付布令ありしか略次又牛羊肉の直價ハ一週月毎に
商法全權宰相より其定價を細密に布令すへきとも亦
略す○同三十日昨二十九日朝五字一分よりビルシ



ユイフ寨（巴里府城外の一砦城也）に於て戰爭あり普
軍頻りに大砲を發射して法軍に迫りしかハ法將ゼ
ネラルイノアー其手の軍を繰出し烈しく戰へり又
法の將帥ゼネラルギリームも其手下の軍を率ひて
眞先に進ミ敵の砲臺を烈しく襲ふて竟に之を掠奪
せり此時敵の援として大略三萬計の新手俄かに來
れるに依りゼネラルビノアー其軍の對戰ひへから
ざるを量り直に令を下して諸兵を引上けたり最後
に此度攪募の法國民兵大に功勞あり今日ゼネラル
ギリームの戰隊直線に敵の砲臺を襲ひ是を奪領し

に之及びてギリーム氏討死しぬれハ法軍の損失莫大なり此ギリーム氏ハ勇猛殊に勝れし人也とて衆大に惜嘆せしと○又本日他の一地に戦争ありゼネラルエキセアの軍大ひに苦戦せりを今日救助醫師の一隊其手能く行届きしを録す昨二十九日の戦闘ハ實に近日の大戦にて将師の勲功兵士の功労殊に抜群也と政府大に褒賞せり○十月一日(我九月七日)昨九月三十日ストラスブール縣及ツール縣の二縣防戦の手段竭き開門降参将卒悉く普軍の虜となり其大砲及諸兵器ハ皆敵の掌中に陥りしを報ぜし此縣の籠城都て五十余日也此ストラスブール縣の大将ハゼネラルユリックと號して一勇将なりと云○同二日今日巴里府市中へ布令あり

此度ストラスブール縣開城に及へり當縣に籠城せる将帥士卒及市民等戦闘の始めより皆死力を盡して防戦せる事都て五十餘日なれハ實に能く其國土に報じたりと謂ふへし爰に於て巴里府コンコルド場に安置せる當縣の石像を新たに青銅を以て鑄造し其勳功を表章すへしと

右の事件をミニストルランストリユクシオンピ

ニブリック即ち教導全權宰相之に任せられし事
一千八百七十年十月二日　政府官員連名
第二ハ布令軍務宰相より
今般巴里府籠城防戰に付取立る處ハ市兵に渡し手銃其品類種々あれと雖も其高四十萬挺也今二百二十八バタイヨンの市兵に渡せし處乃銃其高二十八萬挺にして其品種左の如し
ヒユジーアタバチエール(元込管打銃)九萬五千挺
ヒユジーペルキユツシオンライフル(施條銃)十二萬挺
ペルキユツシオンカノンリス(垂施條銃)六萬挺
カラビン銃(英製)二萬挺
右總計二十八萬挺
今般軍務局より諸市兵農兵隊中に渡せし手銃の高既に四十萬挺を登せり即ち巴里府守備の市兵隊中へ二十八萬挺諸會社中より自ら募り出ゐる市兵隊へ二萬挺諸郡縣より撰募せし所の諸民兵隊中へ九萬挺
右總計三十九萬挺也但し本務の兵隊ハ格外也
今軍務局に殘るハ一萬挺而已なれバ最早市兵隊を渡すへき小銃なし今軍務宰相此一萬挺を用意

のため局中に留めて俄に招募せる壯年兵士のためにに貯へ置くへしと以下略す

一千八百七十年十月一日

同三日今日ウエルサイル縣（巴里府の隣縣にして其距離我六里計也）は急擧に曰今般巴里府籠城中其枝縣の内此ウエルサイル縣の如き苛酷苦惱を受るは地なし當縣始より防禦の兵なく敵は亂入に抗抵せる人なきは敵軍入つて其權を恣まゝにし其所爲殊に苛酷にして實に其痛苦悲嘆に堪へず加之普軍の總督より今日左の示令を當縣中に布告したり

普國王の太子フレデリツキ゜シヤルヽの命に依て其將エダマシヨウルの督監ゼネラルブリユマンタールは今其令を普く市街に公布せ

方今戰爭中當ウエルサイル縣の人民を

貸し家持の主人　金銀を貸し主

貸し部屋持の主　其他諸職人等

月々一百フラン以上五百フランまての租税を普軍の總督へ相納むへし又普軍滯陣中諸兵士は食糧及其他入用の諸品を速に給與せへきこと又兵士止宿のため市中は家屋入用は節を何時にても

違犯なく相渡すへし又兵士滞留中日夜共出入の節差支なきやうに其都度〻〻開鎖違背すへからさる事

右の條〻若し違背する者有る時ハ直に軍法を以て死刑に處せらるへし

方今戰争中當縣の住民退去し他方へ轉移いたし度輩ハ故障なく望み通り速に其退去を差免すへしされと巴里府の方に退去する事ハ之を許さす只シヤルレツト縣の道路を明けて退去の道とせしむ故に此地に向つて退くへし若又此令を犯し巴里府路の方へ遁去る者あらハ一言の問をなさす直に彈丸を以て討果すへき事

當市の人民等夜中若し其家に歸り宿せさる者ある時ハ直に其家屋を取り上くへし又大小の包物及ひ兵器を携ふる事堅く禁斷すへき事

一千八百七十年十月三日　普漏斯軍督

右の如く市街所〻に張出し嚴酷の命令あれハ當縣の人民殊に苦惱せりと云〇昨三日朝今度討死せしゼネラルギリーム氏の死骸をインワリデーの地に於て懇ころに葬れりと〇巴里府内近頃食糧の獸肉

えしなれハ此程より馬肉を屠り牛羊馬乃三肉を以てこれに當てたり然とも猶其肉十分ならされハ人屠者の門前に終日群集せり〇同四日英國女王より普國王に送れる書に曰神明に基き人情に依り此一書を陛下に呈ハ今次陛下の軍兵威を輝す既に妥に至れり今若し陛下の恵德に頼て二國人民乃鮮血が草野に流す事を欲せすんハ願くハ陛下其軍を収めて以て巴里府億兆が生民を救ふべしと普王の答書に曰陛下の高論實に慈愛を垂れたり余亦高論に從ハんと欲ハ且神明我に問ふ我今此生民の鮮血を草野に灌





く事心に快きや否やと然れとも神亦此後鮮血を一滴も流す可からすとの禁あるなし今二國講和の成否を巴里府城に在て我に在らハ然と雖も今生民の塗炭を視る困より余か欲する處なれハ力めて傷害せしめハ鮮血を灌かしめハ又巴里府人民乃苦腦を除かしめむと欲ハる也〇今日又ビスマルク氏の吐ける大言を誌せりと雖も之が畧す〇同五日九月廿九日ツール縣〔此ツール縣ハ巴里府籠城中法全國の制馭を司る別府なり〕より法全國へ布令今次巴里府防戰に付諸府縣が市街總督命が奉し

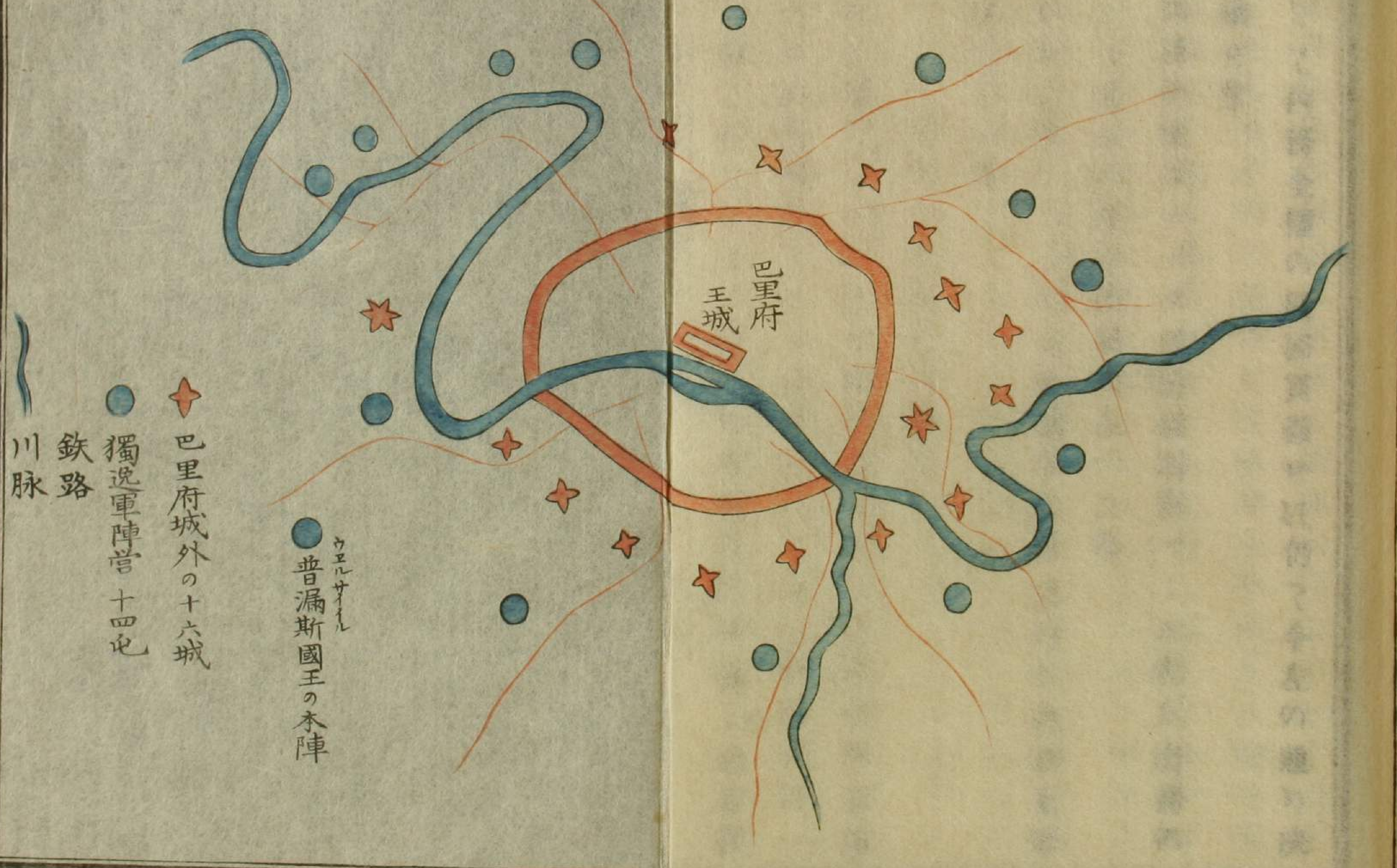
自今直に市兵は戰隊の預備すへし其目
今度撰募に應したる民兵中未本務の兵隊に入ら
れ又市兵隊に加へらるるの輩及都て全國の人民
其齡二十一歲以上四十歲までの者にて妻子なき
分を悉く戰隊に編入すへし
今般戰隊中に募り入たる兵を他日軍務宰相の差
圖有るまでを都て市兵隊中に差加へ置へき事
其兵隊を諸縣の總督是を請取り調練なさしむへ
き事
其兵隊は分配を悉く軍務宰相の令に任すへし



其兵隊に渡すへき小銃不足の時は其府縣の總督
及縣令より都合に依り獵銃杯の取集め渡すへき
事
右の事件を都て軍務全權の副官に委任せられたり
一千八百七十年九月二十九日
同六日今日一使鳩書の齎して巴里府に來れり〔籠城
中書翰の贈答を皆彼氣球を以てすと雖も若急事あ
或いは小事件のある時を此使鳩の翼下に其事を書し
或いは一書を頸下に括りて放つものなり〕ツール縣より

出せし報知に曰今般ブレーターニー縣に於て巴里府應援のため七萬六千の市民を撰ひ軍兵に募擧なせり○今朝九字巴里府モンマルトウ街より一氣球を上なおれ是を内務全權ガンベタ氏法國別府ツール縣に往く爲として其屬官二名及使鳩六羽を乘せて共に發せしと云○巴里府城攻圍の普軍此兩三日十四個所に陣し其兵總て五十萬又今法國中に在る普軍都て一百餘萬なりと而して普王ハウエルサイル縣に其本陣を居へたれ○同七日市中に布令巴里府籠城中法全國の諸縣と相通ずる事能いは

巴里府城周圍之略圖




に往く爲にして其屬官二名及使鳩六羽を乘せて共に發せしと云〇巴里府城攻圍の普軍此兩三日十四個所に陣し其兵總て五十萬又今法國中に在る普軍都て一百餘萬なりと而して普王はウエルサイル縣に其本陣を居へたり〇同七日市中に布令

巴里府籠城中法全國の諸縣と相通ずる事能はず

して内務全權の職務貫徹せし仍て今左の通り決
議せり
内務全權ガンベタ氏法國別府ツール縣に出務の
ため近日巴里府出發有るへき事
外務全權ハーブル氏籠城中巴里府内の内務全權
兼任なる事
一千八百七十年十月四日
内務全權ガンベタ氏今朝氣球に乘り巴里府内を發
し此時法國諸縣へ普く公布せんかため同氏左の一
書を齎し往々其文目今の狀態我法國實に危急存

亡の秋にして我人民今宇内萬邦に向ひて非常の擧動を示すの日に非すや爰に二百萬の生民を包育する處の巴里府今日敵兵既に其四方を圍めり然るに我全國人民實に身家を忘れて之を守禦するれ意なき時は防禦頓に弊し救援繼かす敵兵一回之を攻めハ府内の人心一朝に瓦解し上下一夕に分裂すへし果して然らハ擾亂破解の機亦近きに在らむとす幸ひ我府城現に四十餘萬の市兵あり衆皆一致して必死を究め各其身を抛ち防戰す實感嘆依賴すへし嗟乎我法國の生民我國家の興廢と國威の存亡とは唯今日に



あり嗚呼是此衆庶今國土の威名を保つも惟汝衆人保ち得るゝも亦惟汝衆人我億兆の生靈一回怒て憤激盡力さハ豈國威の恢復せるゝ事あらむ努めよや

一千八百七十年十月四日巴里府大統領以下十名余

按るに此布令其月附去る四日にして布告するは今七月也昔日曾て斯の如き遲滯ある事なし然るも此時內務全權竊に氣球に乘り巴里府城を出る故を以て其事先きに敵軍に漏れむ事を恐れ之を秘して其發後に布告せし者とみへたり○今朝巴里府內二個所より四個の氣球を上ぐるあり モンマ九ト街より上

なある二個乃氣球中ゟ內務全權始め役員八名乘れ處即ち一個ふ四名宛也又使鳩三十羽を入れたり〇今朝百五十乃至二百人の婦女病院乃旌旗を押立て巴里府政事堂オテルドビル館ふ往き訟へ乞て曰病院にて所用及傷者の給仕ゟ多くの男子を給られる處願くハ今此男子を皆防戰兵士ゟ編入し我徒ゟ以て傷者の給仕ゟ換へ給ハるへしと此時官員ロセホール氏出て之ニ答て曰今衆の望む處最感嘆せり定めて政府此事を許容あらむ余直ニ其願旨を上聞すへし各先退て其命を俟ちへしと爰に於て其婦女等一



紛退去せりと〇同八日今夕一使鳩歸り來其翼裡の文ニ內務全權無事ニ地上ゟ降れりと〇今日巴里府ニ到來せる英國倫敦府十月三日の日誌を閲れるニ今般英國と支那と一事件起りて其和睦破れ雙方兵力を用ひ候ふを得候るの勢なれハ英國も其軍艦の准備成て不日ふ兵を舉る模樣ありと〇以太利亞及羅馬の戰報ふ近日以軍羅馬へ闖入し其城ニ迫近せ來故ゟ羅馬和睦を乞ひたり爰ゟ於て以國羅馬領を舉て併有せむとすと云〇魯西亞の兵備方今歐羅巴に二鼻興廢の一大戰あり次に支那と英國との間ニ

一事起りし故を以て魯國竊に兵備をなし其手を亞細亞に伸さむ事を謀る然とも魯の兵備をなすハ一朝の事に非さる也○同九日巴里府市街へ大紡領兼巴里府總裁ゼネラルドロシュ布令

方今籠城中周圍砲臺脇側の諸道へ猥りに通行する事を許さす其許容を得るもの左の如し

軍務士官築城科及其役に關係せる職人

此街路家並の住人

巴里府總裁及ゼネラルエタマヂョウル官の免狀證券を所持する人

諸職方の馬車及前條に記せる諸人の馬車の外妄りに此道路通行を許さす

此四件の外籠城中諸砲臺脇側の道路通行一切禁止するもの也

一千八百七十年十月八日

日誌中にウエルサイル街の大泉と題せるものあり其謂ハ去る六日普王の命に依りウエルサイル縣巴里府郭外六里にありし於て在る法國有名の一大噴泉を擧け流せしを凡て噴泉と名る者ハ法國王城及郭内等都て逍遙場ある地にて之を造り水を地上

或ハ池中より高く吹き揚らしむるものなり就中王城の内に在るものハ大約十四五間の高さに揚れり其景最も奇なり又此ウヱルサイル城の飛泉ハ法國第一等なりと謂ふ此時普國の太子及諸將來會し軍中の樂を奏し諸人一統歡ひを極めたりと云然とも其市人等ハ日夜患悶し又敵軍闌入以來其家屋を掠奪せられ加之月々租税を敵軍に徵せられて大に愁苦せりと云○同十日今日內外戰鬪なし又日誌中異聞の記すへきなし○按するに今次巴里府籠城の始め郭外の諸道を斷ちて後府内食糧の内缺乏する品物



固より多し就中乳汁乾酪酥油の類ひ絶へてなき事日既に久し又魚類鳥類を得さる事久し今日政府より發賣する處の牛五百頭及羊四千頭を屠りて食料に充つと雖も何そ二百萬の人口を盈るに足らむ余試に其屠る處の牛羊を府内の人口に配賦し見るに平均して一日牛一疋羊八疋を四千人に配當すへし然らハ千人の分ハ牛四分の一羊二疋なり其肉量知るへきのみ此故に過日以來多く馬を屠り牛羊馬の三肉を賣ると雖も人猶肉に乏しく屠者の門前終日混雜せり又府内食糧の諸物品價騰貴して昔日に三

四倍なれハ貧人大ニ困究し近日ハ市街の路上ニ日夜小店を布き並へ争ふて廉價なる些少の物品を賣る然れとも此小店其利を以て口を糊するニ足らする可し是今府下の人民食糧の外漫ニ無用の物品を求めすれハなり又此籠城久しきニ至れハ随て府下人民の究困亦知るへき也○余竊ニ惟ふニ法の國體ハ其土風人民擧て政路ニ關係し草莽ニ權ありて廟堂ニ威力薄く動もすれハ民心沸騰し其激動するニ當てハ常ニ政府を衝ひて制度を轉換せしめむとす今此共和政度亦然り余又普軍の動靜を察するニ六



十萬の兵を以て巴里府城の周圍を圍み強ひて攻めす又戦を求めす自若と屯陣して久遠を示し其殘りて籠城せる七縣へハ巴里府よりの應援を斷ち既ニ抜きたるストラスブール縣の如く日夜縣城を攻撃して徐々ニ之を畧し其連城を蠶食したる後諸兵を合して本城ニ迫り戦ハすして人心を畏縮せしめ只手を拱して城中有限の食糧の竭くるを俟つの勢也又巴里府城中の事情を察するニ府内の守兵自ら死地ニ入りて敵を驅逐せんとする勢なく又圍ミを破り道を開かんとするの英氣なし只堅く守りて準備を

なれのミ余又廟堂の畫策を擬察れるよ竊よ俟所ろその二つあり其一ハ過日出せる使節歐洲の四大强國英魯墺以よ普く巡行し其國議の一定れるを又一ハ法國普く諸縣の民兵を募りて戰隊を編束し敵の背後を襲ひ擊しめんと計るもの也然るに府内の人氣若し籠城日久しく其食糧に竭き究困切迫しそ老幼街に號ひ婦女途に叫ふの日あらハ恐らくハ人民激動し其活路を索めむと欲して意外の變動を釀れことあるも計り難し寄手の着眼恐らくハ爰に在らむあと俯して竊に法國政府の擧動を察れるふ巴里



府城内の事情大凡斯の如し余他日の參考に浪記れ

○連日ハ戰爭以軍竟に羅馬よ克ち羅馬法王出て降り其土地咸く以國の版圖に入り向後ハ其屬部と成るて

○今日報知ハ誌中に云去る七日内務全權ガンべタ氏氣球に乘て巴里府内を發るハ時他ハ一氣球を同時に發れ而て此二球南方に向ひ風力に隨ひて暫く走しる忽焉風止ミ之きハ只中天に止まて氣中ふ漂へり然るに此所ハ普軍屯營れ上なきハ普軍之ハ見て此氣球に向ひ大砲及無數の小銃を射發せて此時一の彈丸ガンベタ氏の鬢髮ふ觸きるれ是を見

て機關手直に其壓量の砂嚢(氣球の昇降を適度ならしむるため其中に蓄貯せる處の砂を充てたる嚢なりを取出し捨たれハ氣球再ひ中天に昇り辛うして危難を避たる由と○同十一日日誌中有城郭外の小戰ありしを載たと雖も別に奇事なきハ畧して記さず○近日食糧の價沸騰の故を以て先日より市中所々に救助のため假由に食場を設けたり法語是をカンチニエーナシヨナールと云此店ハ只少しの肉類及羹ありて爰に食せむと欲するもの各麪包を携へ來り其肉汁を乞ひ得て食す是全く貧民究子等救助の

爲に開きたる食社也其料一汁或ハ一肉法貨二十サンチーム即我三百文計に當る麪包ハ其價貴からざるを以にして究民貧子と雖ども是を求め得べし又右二十サンチームの金貨ハ老人童女と雖ども容易に儲け得る處也是巴里府市中の豪商富家の施行に均しく設けし會食場也○今日巴里府郭外巽の寨城近傍に戰爭ありて夕刻迄烈しく砲聲を聞く○同十二日異聞の記載すべきなし今日余知人リーテナンコロネルレスピオー氏より軍務官の通行免狀を得て巴里府城郭外巽イブリー及シャラントンの二寨城の下

み出てゝ所々野外の陣營及城堡砲臺を巡見せるに其經營殊に嚴にして素より印鑑免狀を持たざるものは一丁の間を通行なるべき術なし又其道路市街及曠野にも所々砲臺充滿して郭外の市街數百千人の家悉く空虛にして一人も留るもの無く只所々に兵隊の屯集せるを見るのみ今按するに巴里府郭外周圍の人民盡く其家屋拋棄て府內に相集まハ其人口大にして又計るべからず余昔日府內の人口二百萬と聽く然らハ目今籠城に及むで退去せる老幼婦女子及外國人の離散せるもの總計八十萬と見て今



殘る人口百二十萬あり是に海陸軍及諸郡縣より召募しある農兵を合して二十萬とせバ今府內の人口一百四五十萬と臆算せしなり然ども今日此郭外周圍の住民悉く其家屋を捨て府內に投入せしを視始めて其人口の昔日より增し其高二百萬を超越し彼食糧の獸肉大に闕乏せる所以を知る○昨日巴里府城東南の寨城外に於て戰爭あり雙方死傷大凡一千餘人今日法軍中に生虜となる普兵一百人を送り來れり○同十三日今日サンクルー城悉く燒亡せり是此程敵軍の陣所となる故を以て法軍より大砲を

發射し以て咸く焦土となせり此サンクルー城は法帝の別宮にして殊更夏時の間は避暑のため巴里府城を出て此サンクルー城に居住せしが巴里府近傍要害の地なれば今普軍之に據りて陣せしは巴里府籠城の一害たるを以て咸く焼棄せしものと察せられたり○同十四日日誌中書載すべきことなし巴里府周圍の城寨砲臺其防禦の法術大に整ひ城郭諸道の地下總て數多の地雷火を埋伏し守備堅固なれば余仄に聽くゼネラルトロシュ氏去る八月下旬巴里府の總裁職たるべき任を蒙り皈府せしときは諸道及城中



の動靜を察して云迹を此城に於て彼の勝ち誇りたる梟敵を防禦せんは一週日を得べからずと然れども余惟ふに今日府内の守防能く整ひ又市兵を加倍せし故唯饑渇の患なくば暫く保ち得べけれども恐るべきは時日久くして兵糧の竭るなり○同十五日巷説に云一昨普の宰相ビスマルク氏法の外務宰相ハーブル氏へ書を送り數日の休兵を許らむとせしと云ふ○今日メッツ縣の城中より一人の市人敵の圍を脱し白國に出て辛くして巴里府に歸り來れり其者齎し來る十月六日の書中にメッツ縣の籠城日已に

久し然とも市中幸に糧食乏しからす且諸物の價も常よりは沸騰せる事僅に一倍獸肉類も牛は少なれとも羊豕ハ缺く事なし茄菲茶及野菜の類も乏からす人心大に是に安せり法國共和政度を改革せし布令を聞き人氣平順なり八月十四日以來メッス縣に於て獨逸軍の死傷大約左の如し

八月十四日ボルニーの戰之死傷　一萬二千人

同十六日グラヱロットの戰に　八萬人

同十八日レソンビル及サンクリロー戰に　二萬人



同三十一日及九月一日サンバルベ及サンリュッヒンの戰に　一萬人

其以來普國太子の軍フランスシヤルの地に於て大約拾二人を損亡せりと

法將バゼーン其兵を損亡せしは大凡三萬人八月十四日十六日十八日の三日間に一萬五千人の手負あり八月三十一日及九月一日の戰ひに七百五十人の手負あり○城將バゼーン常に自若としてメッス縣を動かれ去る八月三十一日及九月一日の戰ひにも大ひにマクマオンの軍を俟ったり此時若しマクマオ

ンの軍セダン縣を棄てゝメッス縣に來れバゼーン
の兵と合して戰ひなハ普兵を國境まで追ひ返る事
必ず其實有遺憾なりと云〇同十六日法全國へ布令

共和政府諸官員

九月二十九日及十月一日既に布告せし所の法全
國の人民會同し國體政度の評論を十月十六日と
期せり然るを危急旦暮に迫り逮も今日其決議に
及ふ遑なきを以て今暫く延引すへし此期日の猶
豫他事に非す目今の形勢衆の能く知る所也
右の事緒普く法全國諸郡縣へ遺漏なく懇ろに布
令すへきなり

一千八百七十年十月一日

〇十月八日朝六字八分サルブリック縣よりの報知
に昨七日普軍メッス縣の周圍なるセダン゜シャンゼ
アン等の四五縣に劇戰ありし此手の法軍四萬人午後
二字より黄昏まで數時戰爭の後普軍一千餘人死傷
す又法軍の損亡大凡此に亞くと〇十月八日二字三
十分ウエルサイル縣の普軍の報知に云昨夜メッス
に籠城の法兵モセルの地に出て普軍を襲撃されし雙
方數時間戰爭の後法兵二千五百人戰死し城中に引

上るたれハ此時普軍の死傷六百人也と○十月十一日ツール縣の報知に普國アルベル侯去る十月八日朝四字ツール縣を退去せり此ツール縣にハ普の四公侯皆町家に在留して甚た倨傲なりしと又當縣の住民等日々麪包一斤半と酒二陶宛を普の兵士毎に給進致すべき旨を在陣の普軍より命ぜりと當縣在陣の普兵夜中此酒を呑みて酩酊狂動せり但し亂妨狼籍ハ嚴禁なりしも縣中の小麥禾穀等を都て奪掠せり又普軍の内バワロアーの兵三百人一寺院に屯集致せるかれ此兵ハ殊に軍令嚴ならして嘗て暴動を致し當縣



の蓄養場に貯藏せる牛羊を普軍の爲に盡く掠奪せられたれハ仍て市中牛羊の肉甚た少しと云十月八日夜より九日朝まてオルレアン縣の市街に送致せる生捕の普兵廿七人なりしか皆幽囚所に送り幽囚せしか然とも其待遇懇切にして莨茶菓物等を多く給與したり○九日朝分捕の普兵小車に器具を積みオルレアン縣に送輸せり其器具ハ小銃拾七挺騎兵の鎗壹本劍七振歩兵の刀十八振兜十八面内一面士官の兜也若干の彈丸短小銃七挺其外歩兵の諸要具及兵糧器等也是皆當縣の軍務局に送輸せり此時甲冑着

用の虜者一人小車に乗り之を運輸し來れりと○ツール縣の報知に過日以國ガリバルヂー氏近日ツール縣に來るべき報告ありて今九日到着せし此時當縣の人民羣集しガリバルヂー氏の名を尊稱して饗應を具し途に迎へたり此時政府の官員クレミウ氏始め四五輩ガリバルヂー氏の宿所を訪ひクレミウ氏同行して當縣の兵隊を巡見せり其後此二老均しく椅子に倚りて休息し親しく相倶に語り何れも共和政度黨の老校にして其情好最も厚く更に兄弟の如しと○ツール縣第二の報知十二月十一日朝四十



五分發すチエール氏魯國の都府を去つて昨日墺の都府に到着せし直に宰相ベウスト氏に對談すると二時間其後國帝に謁し又談話一字間也午後又諸宰相に對面し不日に以國の都府に發向すべき旨を語れり○是班牙國馬德里府の十月八日の日誌に云今日政府會議の席に於てサガスター氏曰此度法の使節英國及魯國に就て和睦の周旋を願へるに此時二國何れも今度普法間に於て和議の周旋誠に難事なる旨を答たり然とも英の政府より談話の末語に和議實に難きことなれとも兩國宰相間に和議の示

談を周旋難かるべき旨を答へたり○普の伯靈の日誌に魯の后妃より今度獨逸の病院に許多の物品を贈輸して疵傷人療養の用に供せりと云方今普に幽囚せる法軍の囚虜手負人を除き總人數拾二萬七千二百七拾七人内士官三千五百七拾七人兵卒拾二萬三千七百人也と錄せり○同十七日新聞中書記すべき事なし余か知人なる歩兵副總督レスピオー氏過日手負れ疵全快の上再ひ出陣し巴里府城の郭外東南に在る堡砦の先頭を進み五千の兵を帥ひて前營に陣したりしか昨日一書を余に送り我陣營に來り敵

味方の對陣及其地の形狀凡百の事情を巡覽し而して俱に晝食をせむと云へり仍て余今朝九字より一小車に乘り軍務官の通行免狀を得て巴里府城郭の砲臺門を出て遙かに其陣營の方に赴きしに此時レスピオー氏は布陣屯兵の砲臺を指揮せんため出たりしに幸ひ途上にて相遇し直に握手別後の安康を祝し車を同して其陣營に到る時午時に近し程なく午饗に莅むに同坐皆當手の諸將にして歩兵頭歩兵指揮官醫官築城官等同食せり畢りてレスピオー氏余を陣頭の前營砲臺に誘ひて此處より遠望を視るに普

軍の前營眼前に在て其間凡五丁程也此邊の砲臺を
巡覽し其後又同行して此邊村落市中所々に徘徊し
夫より一の器械所の六層樓に登り敵味方の諸陣を
望觀するに敵の陣營は眼下にありて此樓を即ち法
軍の斥候樓と見へて三五員の兵士及士官居たり此
より望遠鏡にて獨逸軍の陣營及諸陣抔望觀しけるに
此時後方イブリーの寨城より二三發の大砲を打出
し普軍の前營中に打籠たり然るときは普軍よりも
是に應ずれば余是等の形狀を見終りて後元の陣營に
皈り夫より別を告て巴里府郭內に入り黃昏歸營せ

りて今日の實に近日の勝觀にして同坐の諸將師も余
に懇情を盡せり○巴里府市街各路の兩側に設たる
瓦斯燈及各家燃點の所近日より其半を減したり
此瓦斯燈平時府內各路を照して實に白晝の如く諸
店各屋に點ずる所も恰も花の如し故に市街明燎夜
中更に美景也然るに此程街中艮朦朧として各屋の
點火も公命ありて十字半を限り咸く消却せり○同
十八日巴里府市街へ總裁職の布令
一巴里府郭外周圍の諸道防禦の總裁をヰノアー氏
及ジユクロー氏の二將に任しイブリー寨よりゼ

ーブルまでの將權をゼネラルイノアール氏に任じ又セーブルよりサンウーアンまでの將督をゼネラルジユクロート氏に任ずべき事

一巴里府及サンデニー縣の間其通行一切禁せられたり然し特別の事故あるときは此手の總督の免狀を受て通行致すべき事

一郭外周圍の諸寨へは士官及諸寨より呼入るゝ者の外入城一切禁斷せり

一獸肉魚類等の食物を府内より輸出の儀は盡く巴里府市街督務の指揮に隨ふ可し



一千八百七十年十月十八日

○同十九日の日誌中に過日法外務宰相ハーブル氏普の軍中に往き宰相ビスマルク氏に對し解兵の談に及びし時其答に曩に申出たる三件を承諾せしめては兵を解き難しと爰に於て法の政府憤然再び和言を出さず誓て全國の人種を盡し防戰の策を定めたり抑ビスマルク氏の胸中を察するに事を長久に計り法の人民困窮の極自ら亂を釀成するの機を俟つものと見へたり然るに今日府内防禦の力を一にし其備頗る堅固なるを以て又一策を設て使を馳せて暫

時休兵の談判に及ひ此休兵中普兵巴里府に入るへき言を申送りて然とそ法國之を肯せす其談再ひ破れビスマルク氏の籌策大に齟齬したる旨を誌るせり○此程巴里府内諸會社中より出版日誌都て二十七種也日々夜々出版其卷數許多なる事知るへし○同二十日籠城日久しきに付兼て政府蓄積の肉類給し難く而して屠商の門前甚た混雜せるを以て昨日より市中家毎に食料の肉を買求むへき紙券を渡せり其法は家内の人口を申立るときは市街督より其人口を書載せ獸肉を賣渡すへき旨を書記せし紙券を



渡して人々是を携へて屠者及肉類商社に行き買求むる事也此紙券なき時は買得ることを能はす一日一人分の肉量百ガラム〔我二十七匁也〕而して三日分を一度に買ひ求め置く事也屠者及商社の門前既二字比より日晡まて人群集して絶ゆる隙なし此節市兵隊三五人宛出張先後の順序を以て混亂なき樣に取締まり斯く人口に應し肉量の紙券を出せる事全く籠城の久遠を保たむか爲也而して初め籠城中貯藏の獸肉牛四萬頭羊三十萬頭にて二個月の積りなりしか今既に一個月を經過すれは籠城の期預め知れ

るからざる而して貯藏の肉も既に其半ば食盡したれば別に鹽漬の肉ありと雖ども是又廑に數日間の貯へ耳故に獸肉買賣の法彌嚴酷なれども馬肉を未だ制限を定めざれバ人得て買入ること自在也只其價も馬肉を亦牛肉に異なることなし○今日市街を逍遙すれバ凡一丁間に料理店二三軒もありて殊に多し今夜其門戸の張紙に今度政府の命令に仍て食料の肉斤量に定限あり故に今日より調進する處の肉ハ一人に一鉢の外ハ進め難き由を記したり其情態既に斯の如し明日食料の缺乏察すべし○同二十一日新聞日



誌の附錄に今般巴里府籠城の日久遠なるに就てハ府内貯藏の獸肉追々缺乏に及へり然とも府内に在る處の馬數平日ハ八萬頭ありして今度戰爭に付騎兵及砲兵の馬を合せ其數十萬頭に登れり今一定の馬肉を法に量目二百五十ギロガラム（即ち我量目六十七貫零二十五匁也）とせハ此十萬頭の馬肉も其高二千五百萬ギロガラム（我二百五十萬貫目に當る）あれバ今府内の人口大凡二百萬人也一人の食肉二十五ギロガラム（我六十七匁に當る即ち各人口に配當するの量目也）を配當して今五十日を給すれバ足る又婦

女小兒乃之を食し得たる者の取除くハ大約二個月の食肉を此馬肉にて不足なしと云へり○巴里府籠城中諸郡縣及他邦に書翰を贈答するに我よりて書を送り他よりも返翰を受取むとにも其賃銀十フラン、我なる二兩也」にして又片便りを五フランと定めたり但し從前の狀賃ハ我なる一朱計り也今にても氣球などハ其狀の價從前に異ならず唯書狀の斤量によりて相違あるのみ○同二十二日郭外ポルトメレーの陣中ゼネラルジユクローより一昨二十日戰爭の報知に云去る十九日ゼネラルドロシユ郭外諸方より襲擊隊



を配布せり其譯第一隊將帥ゼネラルベルトリ氏に屬される歩軍三千四百人大砲二十門騎兵一大隊にしてサンゼルマンの鉄路の側とリユエイル縣とに配布せり第三隊將帥ゼネラルノエル氏に屬されし歩軍一千三百五十人大砲十門にしてマルメーゾンよりブージワルの地に配布したり第三隊將帥ゼネラルジヨントン氏に屬されし歩軍一千六百人大砲十八門騎兵一大隊にしてリユエイルよりコロンの地に屯陣せり此外應援兵二隊內一隊歩軍二千六百人大砲十八門にしてゼネラルマルテノル氏是に將たり其

一隊ハ步軍二千人大砲二十八門騎兵二大隊にしてゼネラルパリユル氏是か將なり同日午後一字諸隊其備地に就き直ちに戰を始め諸砲隊齊しく火門を開き雙方大ひに砲戰して凡一時間を移し其後雙方の步騎二兵入り亂れ接戰黄昏に及へり此時總督ゼネラルジユクロー氏令を下して引擧なり法軍死傷あり四百四拾三人内士官二拾八名にして其内二人は討死拾五人手負拾一人生捕となる又步卒四百人の内三拾二人討死二百三拾人手負百五拾人は虜となり及大砲二門を失へり○内務全權ガンベタ氏曩

にて法の別府ツール縣へ出務の所猶軍務の全權をも兼勤すへき命を報せり此人當年三拾六歳にして政府十一名の職員中最も年少也而て其名譽頗る熾なりとす○同二十三日昨日郭外に小戰ありて互に若干の死傷ありしも異事なかりしは畧す○今日通商司農全權より市中屠者及獸肉商人へ馬肉の定價を布令して若し犯令の者あらハ十一フランより十五フラン迄の罰金を出すへき旨を示したり○日誌中に法國の兵海陸兩軍は六萬人民兵ハ九萬二千人戰隊拾萬人ハ巴里府周圍の屯陣なりと云○同廿四

日（我十月朔日に當る）日誌中に云く支那と英吉利と彌々干戈に及むとせし故を以て英國海軍局へ兵艦を發すへき命を布き英の第一等甲鉄艦を急き支那香東港へ向け出帆すへき由たり此軍の濫觴は當夏西曆六月二十一日支那北京府に於て在留の英人並に法人を支那人殺害せし也然るに法は今普國と交戰國土浮沉の機に在て他を窺ふ遑なし唯英のみ好機を占め時に乘し其欲を逞ふせむとするなるへし○同二十五日ツール縣の内務全權ガンベタ氏より來報知に云去る十八日晝十二字普軍五千人シヤトウダン縣（此地巴里府の坤に當る）を攻擊して夜中九字まて劇戰し九字過て雙方兵を引擧たり此時普軍の戰死一千八百人にして其死骸此市街に累々たり倩又當縣町家過半砲火のため燒失し法將テスタラエール陣頭に斃れたり是尤小縣にして人民死を極めて抗戰せしは誠に近日の一美譽なり而して家屋延燒大半を失へり故を以て政府より此街中ふ若干の貨幣を恩賜せし其ために布令あり其文に一千八百七十年十月十八日普軍シヤトウダン縣を攻擊して戰ひ烈しかりし時に當縣人民皆死を期して防戰し大ひに

法普戰爭誌略　卷之三　十二

敵軍を撃破せり是實に當縣の面目我か本國に報ゆる乃忠節也功勞最も賞すへし又家屋の兵火に罹りしも最も夥し依て今内務全權より十萬フラン乃貨幣を給賜し其功勞を賞し火災を救助す前文の主事は内務及會計の兩全權に任せられたりと○曩に英魯墺以等の四國に遣はせるチエール氏去る二十日曉一字にツール縣に歸着し不日巴里府に入城の報知ありしかは人皆其消息和戰の兩條に於て何れに決するやを相俟てり○方今巴里府内乃情實を察するに門を開きて敵兵を退攘する乃勢ひに非す又潛



入して和平を需むるの情あらす專ら防戰の備を厚くし炮臺を營み市兵を操練せしめ其意蓋し俟つ所乃ものは二あり其一はチエール氏歸着の上英魯墺以の國論を聽くこと二つには法は諸郡縣ゟの民兵應援あるとにして他の策略なかるらむ然るに府内貯蓄の食糧は已に一月半を費耗せり○同二十六日巴里府市中へ布令

一城郭周圍乃諸道ゟ家具諸雜品を車載し府内に輸入する者は住所乃縣令及諸郡役人の免狀を持せすしては明二十七日ゟ一切之を禁斷す

○此度法國準備のため去る十月十日一千五百門の大砲を急速造製すべき旨を鑄造局へ令したり故に昨二十五日二百五十門鑄造整ひ跡二百門も來る廿八日までに鑄造し來月十日までに一千五百門咸く成就すべき旨を其局より申出たり○今日是國の日誌に昨年是國の女主を放逐せし後合衆共和政度となり亦此夏普のホーペンソルレン侯を迎へ國王に立るの談話破れし以來も猶共和政度なりしが此度以國王の一子アオスト侯と云へるを乞ひ請ふ是國の王位に登らしめむとの議成れりと云方今歐洲の諸國各其擘を伸へて他邦を蠶食せむとすれば假令ハ魯西亞の土耳其に於ける英吉利のエジプトに於ける墺地利のゼルビーに於ける以太利亞の羅馬に於けるが如く大き小を呑み強き弱を併せむと思へり○同二十七日メッス縣の籠城日久しく兵粮彈藥共に竭き城將バゼーン一人のコロネル官を歩兵總督普の本陣へ遣り當縣開城降參の旨を申送れりと日誌中に見へたり○昨日巴里府内在住の魯英花旗國等の人民八十余人府内を退去せり但し此日退去の儀も法國政府へ兼て演達ありし故を以て法政府よりエタ

マジョウル官三名を以て法國先鋒の陣所へ送り道路を開て通行せしめ續いて普軍中へ送致せりと云○昨日午後第一字旅人乘込の氣球を巴里府內より出せしと云○同二十八日巴里府郭外ザンデューの寨外にて戰爭の報知あれとも異聞なきを以て爰に略す○昨今メッス縣落城の傳聞追々有りと雖も政府未だ確報せざれば其實否分明ならずと雖も物議極めて囂々たり此メッス縣城壘砲臺等殊に堅固にして加ふるにバゼーンを以て其將帥とし十余萬の精兵を備へあり故に巴里府の人民は敵の背後に此縣ある



を以て大に依賴せし故なりと云○過日歐洲諸國に使せしチエール氏二三日前ツール縣へ歸着せしに今日巴里府に入らんため普の本陣に使を馳せて宰相ビスマルク氏に其軍中通行の許可を得たき旨を乞へり○同二十九日昨夜政府急報を得てメッス縣の落城を布令せしかども諸官員未だ半信半疑なり今日午後外務全權シュルハーブル氏其信偽を探くらむため出行せり然る所午後三字半チエール氏歸府入城しメッス縣落城の旨を報知せしに此メッス縣の城郭は諸郡縣城寨の內尤も要害堅固にして巴

里府以東獨逸境上までの間此縣を第一としてストラスブールの要害之に次ぐ唯巴里府城之に一等を譲るのみ斯くメッスの要害堅固なる所以ハ往時より普國に向ひ戒心最も深きハなり而して今度の將帥ハ法國陸軍諸總督中有名老練のバゼーン氏にして其率ゆる所ハ十萬の精兵なれば普軍深く進入し巴里府城を圍むと欲せば須く先づ廿萬の兵を以て嚴しく此地を圍めり是其背後を患ふるか故也而して法全國の最も依頼すべきハ此メッス縣猶存在して其將帥も老練其兵卒ハ雄武にして能く防戰すべきの報聞



あれハなり然るに今日食糧竭き彈藥盡きて既に開城降虜となりしと聞き府内の人氣挫折し忽ち望を失ひ物議頗る譁すし〇日誌中に云ふ今次チエール氏巴里府に入るに若し法國の利益緊要の大事件を懐ひて歸れハ普軍の中を通して入城ハ中々彼のビスマルク氏是を拒むて許すまじ然とも此度の一凶報メッスの一事を速かに府内に知らしめ恐怖を取らしめむるため容易く其軍中を通し入城を許さしものならむと云余も亦此説に同す普軍の狀態ビスマルクの胸算も果して亦爰にあるべし〇チエール

氏昨夜ウヱルサイル縣に一宿せしが昨日同人同所ゟ
着せしか直に普の有名の謀將モルク氏來りて其
安否を訪へしがチヱール氏其神速なるに驚愕せりと
續いて途上にてビスマルク氏に遇へり此時チヱー
ル氏曰足下と對し更に語るへき語なしと云へりビ
スマルク答へて余能く足下の意を解せりと云て別
を去れり翌朝チヱール氏同縣を發し夕刻巴里府に
入れり○同三十日巴里府市街へ農商全權の布令
巴里府籠城中住民食料の魚類無き故近日府内の
諸湖河池泉中に網を入れ漁獵致しるべき事



右差圖の儀も職業技巧全權より其所置有るべき
事
市中食料の馬肉拂出しの儀毎週閏各所の商會場
に於て馬八百頭づゝ牽出し馬醫之を撿査し此内病
馬或ハ惡疾ある者を除き六百頭づゝ食糧と拂
ひ出さるべき事
巴里府市街督より瓦斯燈の布令
籠城中各家に燃點しある處の瓦斯燈毎家其半を相
滅し二嘴の燃火を一嘴と消滅しるへし猶又諸店休
息所等の燃火を其燃炎を短少にし夜十字半刻に

ハ市中都て消滅して費耗を減ずべき事

右の布令若し違犯の輩ハ曲事に處せらるべき事

右に付市中所々へ目監を差置るゝ事

外務全權兼內務職ハーブルよりメッス縣落城の布令書

メッス縣籠城の月既に久し兵食彈藥盡き去る二十七日開城し將帥マレシャルバゼーン及九萬の兵咸く敵の虜となりたり仍て法國の人民一同奮激盡力して掃攘の功を奏し俱に本國のため復讐を遂ぐべき也



同三十一日今朝未明より巴里府各街市兵隊呼出しの太皷を打鳴し午前に諸部の市兵集合し十一字より隊列を組ミ市兵數萬潮の湧か如く政事堂オテルドヒル舘に向ひて馳せ集り其周圍に群集し四方の道路を取て塞ぎて最も騷擾せり何故なるやと尋ぬるに此程籠城防戰中政府の威權行ハれず件々其宜きを得ざるを以て市兵激動し再び政府の官員を一變し新なるに撰擧せん事を謀り一統競ひ起ちて政府に迫りしなれ也と其群集數十萬敢て目算に可からに直に其市街督出張して此群中に說諭し取り鎮め

ありしかども混亂甚しく言語も通ずること能はず又政府の官員ロセポール及アラゴ二名出て制せむとせしかども曾て之を聞き入るゝ者なく益激動しゐ遂にオテルドビル館の門を開き五百人許の市兵一時に入て階上に登りし故大統領ゼネラルドロシユ衆群に對面せむ爲め坐席を立て階上に莅まむとせしに群黨に行逢ひたるにはドロシユ爰に止まて衆に向ひて言を吐かむとせるに衆口囂々として言語通ずることなく頻りに制して漸く其言を通じたる際其時ドロシユ曰汝衆庶願はくは一兵士の言を聽々



と(一兵士とは謙言なり)余に赤心他念なく報國のためめに一身を抛ち巴里府を衞守せるのみ衆必ず之を疑ふ事なかれと初め余巴里府防禦の督命を受け入城せし時府内固より守禦の設なく其兵をあれことゝなし余其時一目に其形勢を胸算せしに巴里府城の危急只四十八字間にして(即ち二日二夜也)落城すべき體也然れども余心志を盡して防戰の術を施行し即ち今日に到りきれ試に見よ斯く勝誇りたる強敵未だ一人も城内に進入すべきことなきを我輩日夜焦心苦慮せしは處を專ら敵を禍攘せずに在り宜しく脅毅防戰其力

を盡すべき也と此言語漸く衆の耳に通じける事を得ざりし然れども其言未だ全く終らざるに再び群黨激動し其事理を聴き入れずして館前に參集し其勢恰も潮水の憤湧するに異ならず此羣中にてさも斯く火急に羣集しけるも政府を倒さん爲なるか又官員が退くか爲なるや其趣意が了解さ依流れ徒頗る多し此時諸官員遽に政事堂に參會し鎮撫の事が議せしに午後二字羣黨中より五拾人余の巨魁政事堂に赴き申しけるは今館内に入て面談すべき事件ありし政府の各員出て對面するや否やと此時館内にては其者昇堂を許し誘入れし其羣黨の巨魁はモリースジョリー・シャッシン・フロセー等也政府宰相始各員列坐して前にてモリースジョリー問て曰一昨日ブールゼーの戰爭何る故に斯く敗衂せしやと政府官員デユフヘリー答て云是全くゼネラルベンマー氏が指揮が過に因る而て猶云々其他又發言せんとしける内モリースジョリー又押し返して曰是足下の飾言也云々と斯く討論中俄に數拾人の市兵銃を携へ政事堂上に入來し亦動亂せり此時官員セクレッケル氏出て之を制し汝等合衆共和の同僚に列し斯く暴動するは實に恥

辱とはなきに非ずやと云々せば市兵怒てセクレツケル氏を取圍み大音聲に此奴踏潰せよ々と呼はり其狼藉實に言語に絶へたりと此時大統領ゼネラルドロシユに他より一紙を届け來たり其書に曰く今日即法國の末期也法國動搖を維持すべからずと又其略に曰今日政府の各職官員を咸く退務候を新に市人中よりて各職を撰用すべきなりと云羣黨を益館外に集合し街路に充滿せりて依て近傍の者都て門戸を鎖し其店を閉ぢ又雨中にて泥路故雜遝中數人の怪我あり又此混亂中何者なるや空中へ向ひ四發を砲發



せりて衆彌動搖は此時巨魁たるピエール及デレークラスの二人を官員撰擧の書にベープテルクリユスレドリウロビインプトリイシの四人を記し此内より大統領に任すべき旨を載せたり羣黨數人政事堂上に登りて大統領ドロシユに迫り罵りて曰速に節を退去せよ人今汝を害せむとすと此時ドロシユの返答に余は兵士也敢て恐れずと神色自若なりて羣黨乃ち政府の諸官員を取り圍み皆幽囚せり唯ピカルドと云へる人此中を免かれ出此館内を脫し急に傳信機を以て諸軍督の許へ救援を乞ひて此宵の八字也此形

勢巴里府城外に迫られ普軍を防くよりも最も難し亦普軍若し此内亂を察知せハ城内實に危かるへしと云八字半傳信機の急報に因て數大隊馳來り此政事堂を警衛し直に入てゼネラ九ドロシユを救ひ出せりドロシユ之に依て漸く館を出てチボリー街長の居館に向へり他乃官員へリーロセポー九ペレタン等を幽囚中を脱出せり然れともハーブ九ドリアン・シモノし等を猶虜中に止まれり同九字ゼネラ九ドロシユ其居館に歸る諸兵隊來りて其居館を警衛し諸軍督士官を馳集めり此夜ゼネラ九ドロシユ政

事堂オテ九ドビ九館を退くに市兵の裝束を着し兵卒と混し退歸せりと云同夜十二字半二萬餘の市兵リボリー街に充滿せり此夜小雨降りて最も寒し然れとも市兵手銃を携へ途上に立ち曉二字頃より追々減したると雖も三大隊のモビ九隊ハ政事堂オテ九ドビ九館を警衛せり曉三字大統領ドロシユ兵隊を帥ひて政事堂に入り再ひ其館を奪ひ羣黨のために幽囚せられたる各員の宰相を出し其舊職に就々せり曉四字數大隊政府警衛のために政事堂に參集せり○此夜政府の諸官員を幽囚せる時間に此羣黨の巨魁中に

り市街各部へ張紙にて左の通り布令せり其文に曰今日第一字オテル ドビル舘に於て政府の官員退職一新の議なせり之に仍て明十一月一日第十二字市中總街皆集會し入札を以て其官員を撰擧すへき其裁判は巴里府市街督に委任せらるゝなりと云撰擧全權の統領はドリアン副統領はシウル セール巴里府市街督はエチアン アラゴ副督はエロケー ブリソンヘリソン クラマ セラル右の壁書を普く街中に布令しるせり然れとも市人之を信用せす徒に空令白紙に屬せり○今日チエール氏再ひ普軍の本陣ウエルサイル縣へ向て發足せり是歐洲四大國なる英魯墺以の諸宰相に同所に參會し衆議の上公論を以て法普二國間の解兵和談を裁斷せむか爲也蓋しチエール氏英魯墺以の四個國に使して其國論を問ひ法普の和平を四國の公裁に附托せむと欲しけれとも今尚四個國何れも拱手敢て手を下し難きの勢也と云○十一月一日(我十月九日也)昨日騷擾後狂黨竟に壓伏されて再ひ以前の各員舊職を復し今朝外務兼內務全權ハーブル氏より左の布令書を府中二十街に張紙せり其文

昨日張出す處の布令書は政府動搖各職瞬時幽閉せられたる間の事にして固より政府の公布なるものに非す然しも府內の人民昨日來動搖して政府の變革を企望せは固より政府に於てこれを抗戾するの所以なし唯成否は只人民の向背に在りこれに仍て明後三日木曜日府內人心の向背公聞の爲入札を爲し其多寡點撿の上政府の改革を裁斷及へし夫まては閣は各職員確乎不動堅く己か權を守て廟堂を保護すへき也

一千八百七十年十一月一日



今日午後余此政事堂オテルドビル館に到りて其動靜を視るに此館の內外四方市兵民兵の數大隊包圍警備して敢て人を近つけす銃劍を組み立て籬垣を造りて勢ひ甚た盛むなり只其外方途上に羣黨評論談合して通行を妨く其數幾萬なるを知らす○同二日

巴里府へ布令第壹號

一此度人心惑亂市中動擾して政府の變革を企望するに就ては固より共和政度なるものを以て政府敢て民心の方向願望を拒絶するの義なく唯公論に依て其可否を斷せむと就ては明三日府內二十街

中より夫々出頭公會の上入札を以て決議取るべきなり

一明三日木曜日入札會合の儀朝第八字より夕第六字まで其間開席の事

一會合入札の分別は二十街何れも毎街の宿老之を司りて毎街の住民別局にて入牘の事

一右入札開封の義は内務全權及巴里府市街督及府内二十街中の宿老各會合の上點撿有るべき事

一千八百七十年十一月二日

巴里府市中へ第貳の布令

一敵兵今巴里府郭外に充滿し城内危急の秋なれば籠城中宜しく人心一和し朝野隔絶すへからずは人々皆諒知する處なれど更に論を待ざるなれば之に依て左の條件を公布す

一市兵隊調練の外軍務官の指揮なくして妄りに銃器を携へ市中に横行暴動するものある時は直に捕らへて其銃器を奪取るべき事

一市兵大隊の諸長軍務官の指揮なく又練兵運動に非ずして猥りに其兵隊を集合し市中に横行暴動なさば亦直に軍務官に召捕へ軍律に處すべき事

一千八百七十年十一月二日

同第三の布令

一今次左の市兵隊乃隊長八名其職務を剝奪せらるへき事　隊長の名略す

一ゼネラルコンマンダンクレマントマス氏府内市兵隊の副總裁に任せらるゝ事

一千八百七十年十一月二日

同第四の布令

一此度左の人ゝ市兵大隊長の職務免せらるゝを右代の官員近日撰擧有るへき事



一千八百七十年十一月二日

按するに此隊長免職の輩ハ過日市兵を鼓動して廟堂を騷擾せし隊長なるへし今日市街の事情諸民其方向を失し明日入札の成否如何むと其決定を俟ち物議頻に沸騰せり彼の十一月二日我十月十日夜認了る

法普戰爭誌畧卷之三終